

第3回 市川三郷町立小中学校適正規模・配置等検討委員会

令和6年9月24日（火） 午後7時から
市川三郷町役場本庁舎1階 大会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 教 育 長 あ い さ つ
- 3 委 員 長 あ い さ つ
- 4 報 告 事 項
 - (1) アンケートの調査結果について
- 5 協 議
 - (1) 本町における適正規模の考え方について P1～P2
 - (2) その他
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

資料	アンケート調査結果・・・・・・・・別添
----	---------------------

※第4回検討委員会：令和6年11月20日（水）午後7時から、役場本庁舎大会議室
主な検討内容（予定）：本町の小中学校の適正規模について及びその方策について

本町における適正規模の考え方（案）について

1 義務教育の役割について

（公立小学校・中学校の適正規模・配置等に関する手引 平成27年1月 文部科学省
2ページから3ページ）

義務教育の段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要となります。

そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。

学校教育の役割を果たす上では、一定の集団規模を確保することが必要。

2 本町が目指してきた学校教育と今後のあり方について

本町の教育施策を振り返ると、学校の統廃合を行わずに、各学校の教育学校規模に関わらず、主に次に示す事業を実施し、教育環境の充実につとめ、成果を上げ、今日に至っている。

- ・複式学級の解消を図るための町単講師の配置
- ・町独自の30人規模学級の維持
- ・児童・生徒の状況に応じた特別支援教育支援員の配置
- ・学校司書の配置
- ・みさと学（ふるさとキャリア教育）の推進
- ・学校給食費の公費負担
- ・「ことばの森」教室の開催

一方、これまでの検討委員会で説明してきたように、各学校において、子ども同士が切磋琢磨したり、多様な意見に触れることができる機会の制限、運動会、学園祭等の学校行事活動の制約、部活動が選択できない等の課題が顕在化していることも事実である。

これまで培ってきた本町の教育施策を継承していくとともに、学校の課題解決に取り組んでいく必要がある。また、ICT教育の推進や、「子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を実現させるため、本町においても、新たな学校教育の在り方を検討していく必要がある。

これらを踏まえた上で、本町の小中学校の適正規模についての基本的な考え方を次に示す。

3 学級規模について

学級規模を検討する上での基本的な方針（案）

・複式学級の解消

複式学級のメリットとして、

児童に目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。

学校行事等では、活躍の場が多くなる。

一方で、課題として、

授業や集団活動に制約が出てきてしまう。

人間関係が固定化してしまう。

学校教育の役割を果たす上では一定の集団規模を確保することは必要であることから、複式学級は解消することが望ましい。

・集団活動が実施できる学級規模

学校教育において個々の児童生徒への対応は非常に重要であると同時に、子ども同士が切磋琢磨しながら学び、また、協調性を育んでいく集団活動の場でもある。よって、ある程度の集団規模による活動が実施できる学級規模が望ましい。

・1学級20人程度の学級規模

集団活動が実施できる学級規模として、男女比の偏りが生じにくくなる、班編成が行いやすく、体育などの団体競技や合唱など集団での活動が実施しやすくなることから、1学級20人程度の学級規模が望ましい。

ただし、これ以下の学級規模にならざるをえない場合でも、授業や学校行事における方法等を工夫することで充実した学校教育ができるようにすることを検討していく。

4 各学年の学級数について

学年の学級数を検討する上での基本的な方針（案）

・クラス替えができる規模（1学年2学級以上）

学校教育において、たくさんの友だちと交流し、多様な意見や考えにふれ、切磋琢磨することは、子どもの成長において非常に重要である。したがってクラス替えができない学年1学級では、交友関係の固定化等がおこりやすくなるため、1学年2学級以上のクラス替えができる規模が望ましい。

ただし、地域性や、通学距離等も考慮する中で、検討していく必要がある。